

# 大田公園 ー太田川駅周辺 緑の軸の一端としてー

Ota Park, Tokai City, Aichi Pref.

岡田 憲久 *Norihisa OKADA*



上：写真1 西側より全体を臨む。背景の建物は日本福祉大学東海キャンパス校舎。校舎側は2mかさ上げし、校舎の地盤に合わせている。  
下：写真2 東側より全体を臨む。手前にはレンガ壁の高低差による子ども広場。園路は遮熱性のインターロッキングブロック舗装とした。

### 中心街の再生・緑地空間のデザイン

知多半島の付け根に位置する愛知県東海市は、平成4年より中心街再生のための土地区画整理事業、市街地再開発事業、鉄道の連続立体高差事業とともに、名鉄太田川駅の東西約1kmにわたる緑のネットワーク計画(土地区画整理事業の一つとして)を進めている。

20数年の年月を経て道路が整然と作り直され、ようやく確保された場を、実際にどのような形にするかという段階に至ったのが平成22年。そこで総合監修者という役割を得、都市機能を確保しながら全体をつながりある緑豊かな歩道となるようデザインに努めてきた。

### 東西1kmの緑の軸

ランドスケープデザインに配慮した都市計画的なスケールでの中心街の緑の整えは全国でも数少ない事例である。

この緑の軸は西端から大田公園、太田川駅西歩道(15m歩

道)、太田川駅西歩道(30m歩道)、駅前広場(西)、太田川駅を挟んで駅前広場(東)、太田川駅東歩道(50m歩道、通称「どんでん広場」)、太田川駅東歩道(15m歩道)と続く。平成27年度末には東15m歩道を残して完成となる。

### 大田公園

「大田公園」(第1期)は2015年3月、緑の軸の西端に東海市の近隣公園として竣工した。公園は日本福祉大学東海キャンパス(2015年4月開学)に接し、明るくモダンでシンプルな、大きなひとつの芝生広場となるよう設計した。また東海市の市民と日本福祉大学の学生らが出会う場でもあり、通学にも支障がないよう動線を考慮した。

公園は南北に細長く、東西は約2mの高低差がついている。上段には水のあるテラス広場がパーゴラ周辺のバラやハナミズキ(日米「友好の木イニシアチブ」)植栽とともに、寛ぎの空間となり、下段には砦を中心としたこども広場を設けた。



図1 東海市太田川駅周辺図

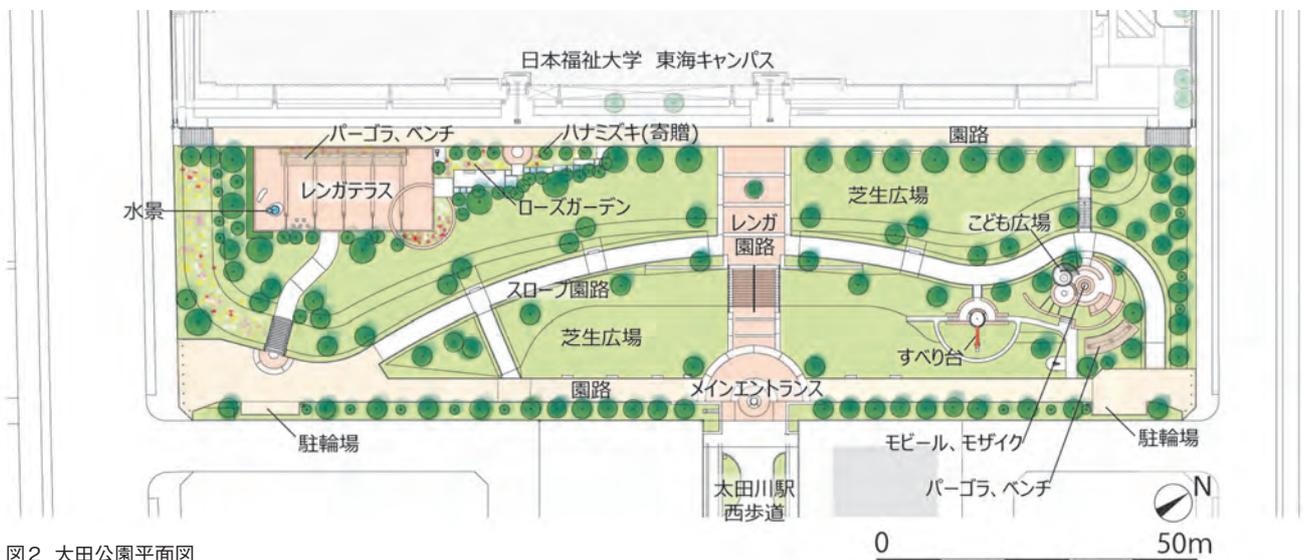


図2 大田公園平面図



写真3 緑の軸線が大田公園から西歩道(15m)に連続して太田川駅までつながっている。大田公園の中心の園路は柔らかさを出すため、レンガ舗装とした。レンガは東海市と同じく知多半島にある半田市亀崎で製造されているものを使用。上部テラスへは階段以外に左右から延びるスロープ園路によってもアプローチできる。



写真4 子ども広場の俯瞰。左側は「太陽の砦」、右は「月の砦」。それぞれの砦には太陽と月をかたどるモビールが設置されている。既製の遊具を設置するのではなく、公園の高低差を利用した遊び場を目指した。



写真5 水景のあるテラス広場。レンガの敷き方でアクセントをつけている。



写真6 レンガテラスと日福大前の園路をつなぐコンクリートのステッピングストーン。テラス周囲は東海市民の寄付によるローズガーデンとなっている。



写真7 水景を中心とし、雲型ベンチとスツールが“Ring-Lang”と名付けられた彫刻の一群となっている。彫刻家木方立樹氏の協力によるもの。石種は「ムーンホワイト」というブラジル産の花崗岩。



写真8 テラス広場のパーゴラ。柱がつい立の役割を果たし、多少のプライベート感を得られる。木材は国産の杉材を屋外での耐久性があるよう特殊加工したもの。デザインは榎藤川原設計の協力による。



写真9 子供広場の太陽の砦から月の砦を臨む。円形のレンガ小壁が重なり合いリズムを作る。アクセントに水色のタイル(太田川駅東側の「どんでん広場」で使用した色)を埋め込んだ。パーゴラ下はベンチとなっている。壁の高さは安全に配慮し90cm未満に抑えている。



写真10 月の砦のすべり台。



写真11 子どもを連れてのひと休憩。



写真12 太陽のモビール。



写真13 月のモビール。



写真14 子どもたちが縦横無尽に遊ぶ。



写真15 公園の銘板。同じ木方氏の協力。花崗岩に色の異なる石を象嵌している。



写真16 公園の案内板。グラフィックデザイナー柳智賢氏にかわいらしくデザインしてもらった。



写真17 太陽のモザイク。制作は名古屋造形大学大学院生、宮本めぐみさん。



写真18 月のモザイク。制作は名古屋造形大学卒業生、佐野友美さん。



写真20 小円が小学生によるモザイク



写真21 自然にまつわるものというテーマで作ってもらった。

左・写真19 子ども広場中央のモザイク。ベースは名古屋造形大学の学生がつくり、そこに地元の大田小学校の子供たちによるモザイクを組み込んだ。

## 制作途中



写真22 日本福祉大学学生との意見交換会。



写真23 造成段階の公園計画地。



写真24 関ヶ原アトリエ(株)において材料検査。



写真25 三次元曲線の石の組み合わせを確認する。



写真26 真鍮の水口を現場で調整。



写真27 内田工業(株)の工場にてモビール材検。



写真28 現場にて水景施設を設置。



写真29 小学生のモザイクを埋め込む。



写真30 本学学生がベースとなるモザイクを制作。



写真31 名古屋造形大学にてモザイクの仮設置。



写真32 現場にて学生が制作。



写真33 現場にて学生が制作。



写真34 ワークショップ当日。あいにくの曇り空。



写真35 小学生による制作。



写真36 同左。



写真37 日本福祉大学の学生。

### 学生、地域の力を借りて

計画段階では東海市中心街整備事務所と日本福祉大学の学生たちで意見交換会を行い、特に福祉的な視点からの意見を設計に役立てる事ができた。

施工においては公共施設としての公園にも手作りの温もりを加えたいと考え、舗装の一部にモザイク貼りを計画した。名古屋造形大学からは太陽および月のモビールの足元を宮本めぐみ(制作当時大学院在学)、佐野友美(卒業生)が担当、こども広場中央のモザイクとワークショップのフォローを野口直人、中島聖二郎、山田英里(学生)が行った。

またモザイク貼りワークショップを開催し、地域の大田小学校児童、日本福祉大学の学生、本学学生らが協力して制作にあたった。日本福祉大学からは2チームが参加し、バリアフリー学科の福田秀志ゼミの学生と、本学から日本福祉大学へ移籍した遠藤由美ゼミの学生の参加をえた。ワークショップの目的には手作りの温もりの他に、制作に参加することで公園が地域のものであり自分たちのものでもあることに思いいたってほしい、という願いがこめられている。

テラス広場の水景、ベンチ、スツールの一群、公園銘板、太陽と月のモビールなど、景観のポイントとなる造形物は本学非常勤講師の彫刻家木方立樹に依頼し、アートとデザインの制作方法の違いに理解を示しながら制作にあたってくれた。通常は図面で形状の指示を行うが、それ以上の形をアーティストの感性と技術によって表出することができた。同じく本学卒業生で非常勤講師のグラフィックデザイナー柳智賢には公園案内板を子どもにも親しみのもてるようかわいらしくデザインをしてもらった。

また制作の様々な段階で偶然、多くの名古屋造形大学関係者の力を得ることができた。モビール、パーゴラ、ベンチ制作は本学の卒業生が多く就職している遊具・公園施設会社が引き受けてくれ、卒業生の神谷直浩が緻密な施工図を作成、モザイク材料の手配や設置には筆者の短期大学時代の教え子、山本俊明が力になってくれた。当公園の写真撮影は本学非常勤講師である漆脇美穂にお願いし、撮影からプリントまで粘り強い姿勢に感銘を受けた。様々に力になってくれた皆様にここで感謝の意を表したい。(※文中敬称略)

### 作品データ

名称	大田公園(第1期)
所在地	愛知県東海市大田町川南新田
発注者	東海市
用途	近隣公園
設計	景観設計室タブラ・ラサ(岡田憲久、田井洋子)、 玉野総合コンサルタント(株)、エスプランニング(大石浩)、 (株)藤川原設計(パーゴラ設計協力)、木方立樹(モビール及び 水景デザイン制作協力)、柳智賢(サインデザイン協力)、 施 工 規 模 竣 工 仕 様
規模	0.75ha
竣工	2015年3月
仕様	舗装/インターロッキングブロック(遮熱性)、レンガ、ベンチ/ 花崗岩、再生木材、水景/花崗岩、真鍮、銘板/花崗岩、 安山岩他、モビール/ステンレス、モザイク/大理石、花崗岩、 タイル、遊具/ FRPすべり台、植栽/アメリカフウ、ナンキンハゼ、 コナラ、クスギ、コブシ、サルスベリ、エドヒガンザクラ、オオシマザクラ、 ウスミザクラ、ヒメユズリハ、タブノキ、ヤブツバキ、芝生他

※写真10、11、14、22～37:景観設計室タブラ・ラサ、  
その他すべて:漆脇美穂